



開館35周年記念 **特設展**

生誕140年 歿後50年

中村星湖展

2024(令和6)年4月27日(土)～6月23日(日)

中村星湖(1884～1974)

山梨県富士河口湖町生まれ。本名將爲。早稲田大学在学中に応募した「少年行」が一等に選ばれ、自然主義作家として知られるようになる。卒業後、「早稲田文学」の記者となり、1919年まで在社。小説だけでなく、フローベルやモーパッサンの作品を翻訳し、鈴木三重吉の児童雑誌「赤い鳥」に童話を発表。さらに、民衆芸術、農民文学運動に関わる評論活動など幅広い分野で活躍した。

「少年行」原稿
「早稲田文学」第18号
1907(明治40)年5月掲載

「早稲田文学」懸賞長編小説の一等に当選した作品。選者は島村抱月と二葉亭四迷。富士山麓の美しい自然を背景に、主人公奈良原武と転入生宮川牧夫の友情と成長、別れを描いた。



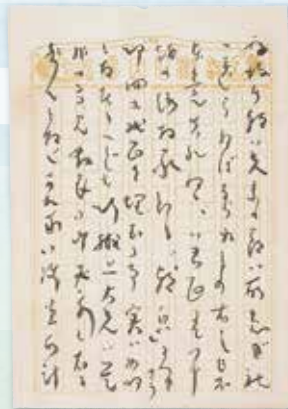
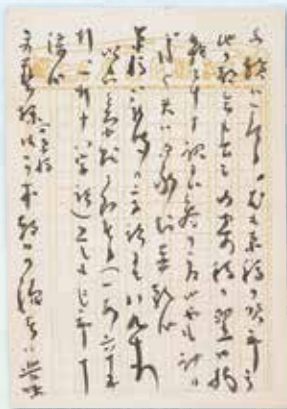
そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

生誕140年 歿後50年 ^{せい} ^こ 中村星湖展



夏目漱石 中村星湖宛書簡 1911(明治44)年7月25日

「三田文学」に掲載された久保田万太郎の小説「朝顔」の評価をめぐり、漱石門下の小宮豊隆に対する反論を、「東京朝日新聞」文芸欄へ掲載することを星湖が希望。文芸欄創設者の漱石がそれを了解した手紙。漱石は、文字数を伝えた後、「小宮を相手にする意味でなく読者を相手にする御積にて御執筆被下候はゞ仕合せに候」と記している。



中村星湖画 パリの下宿の窓から見た風景 油彩

1928(昭和3)年5月、フランス留学のため神戸から乗船し6月にパリ着。10月、本間久雄とチェコの国際民俗芸術会議に参加、11月、スイスにロマン・ロランを訪ねた。その他、ヨーロッパ各国を精力的に訪れ、翌年5月、帰路に就いた。



中村星湖「釣ざんまい」

1935(昭和10)年8月

健文社 装幀 丸野竹南

釣りの歴史・精神から実際までを収めた随筆集。1977(昭和52)年から翌年にかけてアテネ書房から刊行された開高健監修「釣の名著」第1期全7冊の第4冊として復刻された。

中村星湖展に寄せて

中丸宣明

前回の中村星湖展が開かれたのが、一九九四年のことだったから、今回は三〇年ぶりということになる。この間、星湖をめぐる「研究」はいかなる進展を見せたのだろうか。星湖の文学史的な位置づけは、吉田精一がその自然主義研究の古典とも呼ぶべき『自然主義の研究 下巻』（一九五八）で「最初から純然たる自然主義作家として出発した最も若い世代中での中堅的存在」として定着していると言えよう。ここで問題となるのは、星湖個人の問題というより自然主義文学というパラダイムであろう。長く日本近代文学の主流は、自然主義から私小説へと「日本的」リアリズムの展開に見出されてきた。その自然主義が、全くとは言わないが、読まれなくなってしまった。一般には自然主義の魅力は褪せたといえるのかも知れない。しかし、それはその作品ゆえなのだろうか。無理想無解決、平板な日常を素材とした辛気臭い小説といった否定的な評価はどこから来ているのか。それは、作品そのものに由来するより、西洋文学の影響による観念的当為論的な評論にあったような気がする。評論と実作をともに能くした花袋のような作家ですら、その二つの乖離は大きい。同時代の評論をひきずる文学史の軛を離れ作品そのものに帰ることが必要である。

自然主義再評価のヒントを与えてくれるのは、日本の自然主義作家が「師」として仰いだ西洋の作家たちへの眼差しであろう。例えばエミール・ゾラ。日本でも没後百年記念として選集『ゾラ・セレクトション』（二〇〇二）(一)が出され、主著『ルーゴンマッカール叢書』が完訳された（小田光雄訳、二〇〇四）(九)。これらは日本での翻訳書の出版であるが、その裏には欧州での分厚いゾラ研究がある。そこではゾラは激動の十九世紀末の不安と夢想を表現し、来るべき社会の理想を語って「みせた」とされ（個人と集団の野心が激しくぶつかり合い、欲望が渦

巻くドラマをつうじて、近代社会の葛藤と力学を鮮明に抉り出し）（小倉孝誠『ゾラと近代フランス』二〇一七、副題は省略、以下同）たとされる。またゾラを含む自然主義はそれ以前の時代の（文学と作家を取り巻く物質的な状況と、制度的な枠組みと、密度の濃い交流が、それ以前の時代とは根底的に変わった）時代の産物として理解されている。つまるところゾラの文学は（十九世紀後半フランスの政治、経済、社会、文化、習俗、思想、科学などあらゆる側面を表象した一大フレスコ画）であるとされる。このような視点から、日本の自然主義の再評価は出来ないのか。筆者は最近、花袋の「生」や「妻」、あるいは藤村の「家」を論じて、その本当の意味での「風俗小説」性を論じたことがある（『物語を紡ぐ女たち』二〇二二）が、そこでの試みはまさに一九世紀から二〇世紀にかけての日本の（フレスコ画）を見出すことであつた。

中村星湖の再評価も、そんな文脈の中で試みられる必要がある。前回の展覧会以降で、星湖研究のエポックは先ず以て、『精選中村星湖集』（紅野敏郎編、一九九八）の出版であろう。なんと言っても全集も選集も存在しなかつた星湖である。それは先ずもって作品を読むという大前提に寄与する。また、その「まえがき」で編者はその評論や随筆をまとめる必要を述べるが、文学館の紀要である『資料と研究』において、星湖自身がスクラップした同時代発言を現在整理中）であり、その完成を待つと言われている。研究としては、なんとと言っても代表作の「少年行」のモデル論（中村章彦『富士山の御師三浦吉郷の生涯』二〇二三、所収）、およびその作品論（藤沢全、加藤慎行、伊狩弘、朱田云など）が、また星湖と農民文学の関連を論じたもの（牧千夏、鈴木暁世など）等が目につくが、本格的な再評価はこれからであろう。（紙幅の関係から、書誌データはミニマムとした。特に論文の紹介は著者名のみとした。ご寛恕されたい。）

（なかまのぶあき 法政大学教授）

開館35周年記念 夏の特設展「文学はおいしい」

7月13日(土)～8月25日(日)

文学作品には、食の場面が多く登場します。作家たちの食へのこだわりを探ると、好き嫌いがあつたり、忘れられない思い出の食べ物があつたり……。料理本を手がける作家も意外に多いのです。芥川龍之介と甲州葡萄、太宰治と甲府の豆腐屋さん……。文学のおいしいシーンを紹介します。



飯田龍太宛幸富講寄せ書き(部分)
1969年7月6日
井伏鱒二画・書 寄託資料

常設展

第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、太宰治、飯田蛇笏、飯田龍太など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介します。第1室の期間限定コーナーで次のとおり展示を行います。

春の常設展「深沢七郎 生誕110年」

3月5日(火)～6月2日(日)

夏の常設展「虚子と富士北麓の俳人たち 虚子生誕130年」

6月4日(火)～8月25日(日)

第5室(展示室B)

山梨県出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示しています。

前期：小説・評論・随筆・翻訳・ジャーナリズム・戯曲・脚本・童話・童謡

4月2日(火)～8月25日(日)

イベントガイド

※各イベントの詳細や申し込み方法は、当館ホームページやチラシで順次発表します。
ご確認の上、お申込みください。

特設展「生誕140年 歿後50年 中村星湖展」関連イベント

講演会「中村星湖 自然主義文学の再評価の中で」

5月18日(土) 午後1時30分～午後3時

講師：中丸宣明(法政大学教授) 会場：研修室 定員：100名 無料

特設展「文学はおいしい」関連イベント

消しごむはんこづくりワークショップ

7月28日(日) 午前の部10時～11時30分 午後の部2時～3時30分

講師:アオヤギルミ(消しごむはんこ作家)

会場:研修室 定員:各回15名(小学校4年生以上) 材料費:500円

その他のイベント

川上健一 初心者小説創作教室(全2回)

県内在住の小説家、川上健一氏による講義・実作指導。2回とも出席できる方、お申し込みください。課題提出があります。

1回目 6月29日(土) 午後1時30分～午後3時45分

2回目 9月28日(土) 午後1時30分～午後3時45分

会場:研修室 定員:20名 無料

三枝浩樹 初心者短歌教室(全2回)

歌人の三枝浩樹氏による講義・実作指導。2回とも出席できる方、お申し込みください。

1回目 6月 1日(土) 午後1時30分～午後2時40分

2回目 6月22日(土) 午後1時30分～午後3時

会場:研修室 定員:20名 無料

小さな本(ZINE)作り教室

アーティスト吉田朝麻氏による手作り小冊子(ZINE)の制作指導。作った本は持ち帰れます。

7月20日(土) 午前の部と午後の部があります。

会場:研修室 定員:各部20名 材料費:500円

ZINEフェスティバル2024

県内外から集めた様々なZINEの展示や無料配布を行います。

7月21日(日) 会場:研修室 入場無料

朗読公演会 かわせみ座「Marionette Poems」

8月18日(日) 午後2時30分～午後3時45分

何もなければずの舞台が、果てしない空になり、海になり、山になる。

人形たちは、想像力の翼をはばたかせ軽やかに宙を舞い、水の流れに身をまかせ。

マリオネットアーティスト・山本由也氏が自在に操る人形と朗読家・原きよ氏の朗読が織りなす詩情豊かな人形劇の世界。

会場:講堂 定員:500名 無料



かわせみ座

年間文学講座

*講座1、2ともに午後2時～午後3時30分 会場:研修室 定員:100名 受講料:無料

*お電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

*それぞれの講座で年間を通してのお申込みも受け付けます。

講座1 (古典分野) 藤原道長と紫式部のライバルたち

—大河ドラマの世界を同時代の史料と文学作品から読む—

講師:池田尚隆 (山梨大学名誉教授)

5月11日(土) 藤原道長の父兼家とその子供たち

6月 8日(土) 藤原道長の兄道隆とその息子たち

7月 6日(土) 藤原道隆と娘の定子

8月10日(土) 藤原道隆の息子伊周と貴族社会のあつれき

9月14日(土) 藤原道隆の死と中関白家の没落

講座2 (近現代分野) 健全と不健全のあいだ —日本近代の犯罪小説を読む—

講師:古川裕佳 (都留文科大学教授)

5月21日(火) 志賀直哉「范の犯罪」

6月18日(火) 志賀直哉「濁つた頭」

7月23日(火) 菊池寛「ある抗議書」

8月20日(火) 芥川龍之介「二つの手紙」

9月 3日(火) 芥川龍之介「或旧友へ送る手記」

*講座3は午後2時～午後3時10分 会場:研修室 定員:60名 受講料:無料

*電話にてお申込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

講座3 作家と作品 当館の学芸員が講師を務めます

6月 2日(日) 保坂雅子 (当館学芸課長) 資料からみえる中村星湖の人と作品

8月12日(月・振休) 高室有子 (当館学芸幹) 作家が描いた甲州の“食”あれこれ

名作映画鑑賞会

5月6日(月・振休)「まく子」 原作:西加奈子 監督:鶴岡慧子

出演:山崎光、新音、草薨剛 他 108分(申込開始日 4月9日)

8月4日(日)「あん」 原作:ドリアン助川 監督:河瀬直美

出演:樹木希林、永瀬正敏、内田伽羅 他 113分(申込開始日 7月5日)

*2回とも上映は午後1時30分から。会場:講堂 定員:300名 無料

*電話または当館ホームページの「イベント」欄の申込みフォームからお申込みください。

先着順で定員になり次第締切となります。

閲覧室

入場
無料

閲覧室では、ご来館いただいた方に、より当館の資料に親しんでいただくため、所蔵している図書、雑誌を紹介する展示を定期的に行っています。企画展・特設展と連動した内容のほか、山梨ゆかりの文学者の資料も紹介します。展示資料は、直接手に取ってご覧いただくことができます。



閲覧室資料紹介

- 「教科書に載った文芸作品」 1月30日(火)～ 4月 5日(金)
「もっと知りたい中村星湖」 4月26日(金)～ 6月23日(日)
「たべもの百景」 7月12日(金)～ 8月25日(日)
「俳句への誘い」 9月13日(金)～11月24日(日)

寄贈資料より

(令和5年8月～令和6年1月)

- 山本育夫氏より吉本隆明「山本育夫小論」原稿コピー1点、図書2点。
- 三橋透氏より林孝之輔「疫情」原稿など特殊資料4点、図書9点。
- 中村高志氏より李良枝写真パネル1点。
- 本池悟氏より石橋湛山書簡など特殊資料8点。
- 秋元千恵子氏より山崎方代関連写真など特殊資料2点、雑誌5点。

次の皆様からも図書・雑誌をご寄贈いただきました。(敬称略)

雨宮慶子	海野剛	亀山昭子	関口和義	備仲臣道	森田進
石原千秋	小澤久子	川村湊	中込鮎	藤井常文	吉村登
入江和生	河西文彦	小山弘明	長谷川悠	三井ヤスシ	
岩間孝吉	数野徳子	進藤通子	秦恒平	宮野由梨香	

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(4～9月)

4月	1・8・15・22日
5月	7・13・20・27日
6月	3・10・17・24日
7月	1・8・16・22・29日
8月	5・19・26日
9月	2・9・17・24・30日

展示室観覧料

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(企画展は県内在住者のみ)、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。

*団体料金は20名様以上の団体、県内宿泊者割引適用。

施設利用のお申込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の午前9時より受け付けます。文学館チケット売場まで申請者の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。
受付時間は午前9時～午後4時30分です。
- いずれも休館日は受け付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

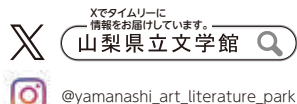
交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・諏訪方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草経由韮崎駅・貢川団地各行きバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL: 055-235-8080 FAX: 055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

